

ラグビーワールドカップ特別対策委員会速記録第四号

2016年8月31日

出席議員 十五名

委員長	吉原 修君	斎藤やすひろ君	今村 るか君
副委員長	伊藤こういち君	山崎 一輝君	秋田 一郎君
副委員長	相川 博君	石川 良一君	吉田 信夫君
	川松真一朗君	徳留 道信君	欠席委員 なし

出席説明員

オリンピック・パラリンピック準備局 局長	塩見 清仁君	パラリンピック担当部長	菅場 明子君
次長理事兼務	岡崎 義隆君	障害者スポーツ担当部長兼務	
技監	上野 雄一君	大会施設部長	根本 浩志君
技監	三浦 隆君	競技・渉外担当部長	小野 由紀君
技監	小野 恭一君	開設準備担当部長	鈴木 一幸君
理事	小山 哲司君	施設担当部長	花井 徹夫君
総務部長	鈴木 勝君	施設整備担当部長	小野 幹雄君
調整担当部長	雲田 孝司君	輸送担当部長選手村担当部長兼務	朝山 勉君
総合調整部長	児玉英一郎君	スポーツ施設担当部長	小中 慎一君
連絡調整担当部長	岡安 雅人君	スポーツ推進部長	田中 明子君
連絡調整担当部長	立田 康雄君	スポーツ計画担当部長	川瀬 航司君
自治体調整担当部長	井上 卓君	ラグビーワールドカップ準備担当部長	土屋 太郎君
事業推進担当部長計画調整担当部長兼務	戸谷 泰之君	国際大会準備担当部長	
運営担当部長	田中 彰君		

本日の会議に付した事件

二〇一九年に開催される第九回ラグビーワールドカップ二〇一九の開催に向けた効率的かつ専門的な調査・検討及び必要な活動を行う。

報告事項(質疑)

- 開催都市マークについて
- 公認チームキャンプ地について
- ラグビーワールドカップリミテッドによる会場視察について
- ラグビーテストマッチについて

石川委員

まず初めに、セキュリティーについて伺います。

このたび、リオデジャネイロ・オリンピックでの日本選手の獲得メダル数は四十一個と過去最多を記録し、男子七人制ラグビー日本代表が四位入賞と歴史的な快挙をなし遂げました。世界ランク十五位の日本のラグビーチームは、初戦で世界ランク三位のニュージーランド、七位のケニア、そして、準々決勝で十一位のフランスを見事に破りました。

十五人制で行われた昨年イングランドでのワールドカップにおいて、世界ランキング十位の日本は、世界ランキング二位の南アフリカに劇的な勝利をおさめました。去年のワールドカップ、ことしのトップリング、そして今回のリオ・オリンピックと、ラグビー人気そのものが急激な上昇の一途をたどっているところでございます。

選手や関係者は、二〇一九年の日本でのワールドカップに向けて、国民の盛大な支援の声に応えようと、日々たゆまぬ努力と精進を続けているわけであります。そこで、我々の役割として、このラグビーに向けられている期待と熱気を持続させる活動をさらに展開させていかなければならないと思っております。

一方、リオ・オリンピックでは、報道陣用バスが襲撃をされたり、馬術センターには流れ弾と見られる銃弾が飛び込んだりする事件も起こりましたが、心配された治安の維持はとりあえず守られたといっているようです。

ラグビーワールドカップ・イングランド大会では、総じて二百四十七万人の観客が観戦をいたしました。二〇一九年の我が国の大会での観客目標については今後示されることとなりますが、選手、スタッフももちろんのこと、観客の安全を確保していくことは最優先すべき課題であります。

世界各国でテロ事件が頻発をしている時代であり、大きなイベントについては、そのセキュリティーが常に大きな課題となることは必然であります。

ことし六月二十五日に東京スタジアムで行われましたラグビーフェスティバル二〇一六&TOKYO及びラグビータスタッチでのセキュリティーの確保がどのように行われたのか、お伺いをいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
ラグビーフェスティバル二〇一六&TOKYO及びラグビータスタッチでは、東京都及び日本ラグビーフットボール協会がそれぞれ警察、東京スタジアム等と連携しまして、来場者のセキュリティー確保に努めました。

具体的には、関係者出入口でのIDチェックや搬入搬出時における出入りの確認、駐車スペースの警備を行うとともに、会場内での巡回警備や会場の出入口で来場者の手荷物検査を行いました。

石川委員
私も観戦をさせていただきましたので、現場は体験をさせていただいたわけでございます。

東京ドーム球場では、入場の際に瓶、缶、ペットボトル類の持ち込みは禁止をされております。しかし、東京スタジアムでは、瓶、缶類の持ち込みは禁止をされておりますが、ペットボトルは持ち込み可となっております。今回のテストマッチでもこれを徹ったのではないかと思います。

二〇〇六年八月九日、イギリスからアメリカ合衆国とカナダに向かう複数の旅客機を爆破させる大規模なテロ計画が発覚をし、未然に防止をされました。この計画は、液状物質を使用し、アメリカ合衆国の主要都市上空で飛行中の旅客機を次々に爆破、空中分解させるという驚愕の計画であったわけであります。

この未遂事件の後には、世界各国の空港では液体物質の持ち込みが規制され、ペットボトルもその規制対象となったわけであり、その規制の流れは空港にとどまらず、スポーツスタジアムにも及んでいるわけであります。

無論、観戦中の水分補給は体調保持のためにも必要であり、東京ドーム球場では、入場の際、持っていたペットボトルや缶、瓶の中の液体を球場の用意した紙コップに移しかえれば持ち込みができるようになっているわけであります。

ワールドカップ二〇一九日本大会は、九月二十日に始まることになっています。初秋とはいっても、かなり暑い日も続くわけで、観客の水分補給も必須といえるわけであります。しかし、テロ対策を初めセキュリティー強化にとっては、国際的にペットボトルは持ち込み禁止物の中に入っているわけであります。

今回の対スコットランド戦ではペットボトルの持ち込みが可能でしたが、私が体験したロンドンではペットボトルの持ち込みは許可をされておりませんでした。今後どのように対応していくのか、お伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
二〇一九年大会におけるセキュリティーにつきまして、スタジアム内は組織委員会が責任を持って担っているところでございます。二〇一九年大会におけるスタジアムへのペットボトルの持ち込みにつきましては、組織委員会が警察等と調整の上、今後決定していくものでございます。

石川委員

いずれにしろ、ペットボトルは持ち込みなくなるだろうと思います。そのために必要な対策とPRをしっかりとお願いしておきたいと思います。

次に、キャンプ地についてお伺いたします。

公認キャンプ地に選定されますとマークの使用が許可され、独自の自治体のPRもできるようになります。これは、いわゆるシティーアイデンティティーの確立にも寄与するものと考えられます。

また、滞在中のチームにかかわる費用は組織委員会が負担する仕組みとなっており、独自のファンゾーンをつくり、住民の皆さんが世界有数のラグビーチームと交流する機会となることは、イングランド大会の南アフリカのキャンプ地であったバーミンガム大学の現地視察でも確認をすることができました。特に大学の知名度の向上と学生が国際大会のボランティア体験ができたことに大きな意義があったとしており、大学側が五万ポンド負担したことに対して、十五万ポンド程度の価値があったという試算も示されているわけであります。

二〇一九年大会に向けて公認キャンプ地の応募受け付けが八月から既に始まっているわけでありますけれども、十二月が締め切りなわけでありますが、自治体間の行政情報にとどめず、広く一般の人が知り、関心を持ってもらう工夫が必要だというふうに思います。今までのような方法で自治体に募集の情報を伝えてきたのか、お伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
公認チームキャンプ地の募集につきましては、組織委員会が一元的に対応することになっておりまして、組織委員会において説明会や相談受け付けなどの対応が図られているところでございます。

一方、公認チームキャンプ地の選定プロセスに関する情報は総務省のウェブページ上で公開されておりまして、応募したい自治体がアクセスできるよう、都は都内の全区市町村に対し必要な情報を提供してまいりました。

また、今後、広く一般の方々に関心を持っていただけるよう、ホームページやSNS等を通じ情報を発信してまいります。

今後とも、都内自治体に対しまして適時適切に相談、情報提供をきめ細かに行うなど積極的に対応してまいります。

石川委員

しっかりした支援をよろしくお願いたします。

一自治体では、宿泊施設はあるけれども、天然芝のグラウンドがないなどなど、全ての条件をクリアできないということで、公認キャンプ地に応募できないところもあるかとも思いますが、複数の自治体がグループをつくって公認キャンプ地に応募することが可能なかどうか、お伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
複数の自治体がグループをつくって公認キャンプ地に応募することは可能でございます。

石川委員

ぜひこのこともPRをしていただきたいと思います。

ラグビーファンなら、自分が住んでいる自治体がキャンプ地に手を挙げることを望むわけで、また自分の自治体がキャンプ地に立候補する世論が起ることを期待するわけですが、キャンプ地の募集について一般にはほとんども知られていないと思います。

自治体への募集作戦が既にワールドカップのプロモートの一つの柱になると考えられますが、もっと広くPRをする必要があると考えております。特に事前キャンプ地は、特別な規定があるわけではありません。全国の自治体が手を挙げるような熱気をつくっていかなければと思っております。そのためには、まず公認キャンプ地の選定を盛り上げていくことが必要と考えます。

次に、六月に行われましたテストマッチについてお伺いたしました。

ラグビーフェスティバルは十二時間以上行い、東京スタジアムの敷地を活用して行ったことはわかるわけですけれども、入場者数は一万九千人としています。そもそも、どのぐらいの入場者を想定していたのか、お伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
入場者数につきましては、専門会社からのアドバイスにより、観客の半分程度である約二万人程度の来場を見込んでおりました。

石川委員

三万四千七十三人も入場者がいたわけですから、この入場者数に近い数の入場が見込まれるべきだということはないかなというふうには私は考えるわけであります。

ファンゾーンへの誘導計画は、スコットランド戦ではどのようになっていたのか、お伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
ラグビーフェスティバルの会場につきましては、試合の前後に飲食やラグビー体験を気軽に楽しめることを第一に考えまして、東京スタジアムの敷地内にあるアジアング広場及びアマニ/バイタルフィールドを使用することいたしました。これらの会場は、東京スタジアムのメーンゲートの反対側にあり、来場者にとってアクセスがわかりにくいことから、スタジアムの入り口からラグビーフェスティバル会場に至るルートの要所要所に誘導看板を設置いたしまして、ボランティアやスタッフを配置して声かけするなどにより観客を誘導いたしました。

今後、できる限り多くの方々に来場していただけるよう、よりわかりやすい誘導計画の改善に向け取り組みを行ってまいります。

石川委員

入場者のみならず、チケットを購入しなかった人、また、ファンゾーンを目的に来られる方もあってよいと思えます。

また、入場者はファンゾーンに確実に足を踏み入れる誘導が必要と考えますが、いかがでしょうか。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
スタジアムの入り口からラグビーフェスティバル会場に至るルートの要所要所に誘導看板を設置するなど、観客を誘導したところでございますが、来場者からは、会場へなかなかなかどり着けなかった、会場への動線がわかりにくいとの意見もございました。

ご指摘のように、できる限り多くの方々に来場していただけるよう、よりわかりやすい誘導について検討してまいります。

石川委員

ファンゾーンの存在そのものを知らない入場者も多いと思うわけですけれども、今後、ファンゾーンそのもののPRも必要になると思います。所見をお伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
ラグビーフェスティバルは、ラグビーを多くの方々楽しんでいただくことを重視して企画、運営いたしました。フェスティバルの開催を都民に広く知っていただくため、沿線の駅や電車内、都のスポーツ施設への広告掲出、市区町村やスポーツ関係団体への周知、ホームページやSNSなどによる事前告知を行い、特に東京スタジアムの近隣には開催日直前にチラシの新聞折り込みなどを行い、集客を図ったところでございます。

今後イベントの開催に当たりましては、より効果的な方策を探りながら、さまざまなメディアを活用して積極的に情報発信してまいります。

石川委員

ファンゾーンも新しいイベント方式で、より多くの人を誘導する必要があると思うわけであります。確かにファンゾーンへの誘導によって、入場者を目的とする人にとっては時間がかかるとはなりますが、今までのラグビーの観戦の考え方を変えて、多面的に楽しんではいただく参加型へと転換が必要になるわけであります。入場される人はファンゾーンに一度は足を踏み入れるような工夫と楽しみ方のPRをお願いしたいと思います。ロンドン・トゥイックナムはそのような形状をとっていたわけであります。

続きまして、交通アクセスについて伺います。

東京スタジアムへの交通アクセスでの課題は、京王線稲田給駅と国道二〇号線、甲州街道への人と車の集中を抑え、いかに分散をさせ、しかもスムーズな乗りかえを実施するかということと思います。

今回、シャトルバスは、三系統の運行が実施をされていたわけですが、十分かといえませんが、特にワールドカップの開会式、本戦は座席数マックスで四万九千九百人のひと、それ以外にもファンゾーンに集客されることが求められるわけですが、他のシャトルバスの系統も開発をする必要があると考えます。

交通アクセスでは、JR中央線にシャトルバスを拡大する答弁が先ほど来るわけですがございませけれども、南武線方面、例えばバスロータリーが駅前に完成をしておりますがJR南多摩駅や、小田急線も狛江だけではなくて、多摩線も入っているわけですので、特急停車駅の南百合ヶ丘からのシャトルバス運行を考えておきたいと思います。また、西武多摩川線の武蔵境駅以外の多磨駅、白糸駅などからのシャトルバスの必要性もあるのではないかと考えますが、考え方を伺います。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
シャトルバスは一定区間を複数回往復することで、観客の利便性の向上を図るとともに、会場の混雑を緩和する役割を担ってございます。

シャトルバスの運行ルートにつきましては、バスの台数や発着スペースの確保、利用者のニーズ、運行ルート途中の交通状況などを踏まえて、総合的に検討する必要があります。スタジアムと鉄道駅を結ぶシャトルバスは輸送手段として有効でございまして、シャトルバスの運行ルートにつきましては、ご指摘の点も踏まえまして、警察や組織委員会、道路管理者、交通事業者など関係者と検討してまいります。

石川委員

大いに検討していただきたいと思います。

次に、ボランティアについてお伺いたします。

二〇一九年のワールドカップは、二〇二〇年の前哨戦といわれ、テロ対策や交通アクセス、多言語対応等さまざまな課題を一九年でまずはトライして、解決してみせる必要があると思うわけであります。ボランティアもその一つといえるでしょう。

オリンピック・パラリンピックのみならず大きなスポーツ大会は、ボランティアを集め、有効に役割を担っていただくことが重要であり、そのことが大会の成功を左右するといっても過言ではないかと思えます。

二〇一二年のロンドン五輪では、組織委員会は約七万人が参加をしました。リオ兼務でも七万人を採用する予定だったそうですけれども、経費の関係で五万人に減りましたが、途中で一万五千人がいなくなるというトラブルも発生し、結局、有償スタッフで切り抜けたという話もございします。

二〇年の東京大会では、組織委員会は八万人、東京都が一万人のボランティアを募集する予定となっております。今回のスコットランド戦のボランティアの参加が五十人と少なかったわけですが、今回のスコットランド戦で得られたボランティアの課題はどのようなものがあるのか、お伺いをいたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
ボランティアの募集につきましては、ラグビーフェスティバルにおけるラグビー体験や運営ブースの補助に携わっていただくことを目的としまして、テスト的な意味から、三鷹、府中、調布の地元三市及び大学生等を対象に五十人を募集しました。

参加者からは、今後もボランティアに携わりたい、来場者と一緒に盛り上がり、ボランティア自身も楽しむことができたとの声をいただいております。

一方、短期間での募集であったことから、プロセス段階から参画することができず、イベントに関する詳細な情報共有ができなかった、自分が望んだポジションで業務を行うことができなかった、ボランティアが十分な力を発揮できるよう、全体をコーディネートできるスタッフが必要との声もありました。

二〇一九年大会では、今回の取り組みで得られた課題を、組織委員会を初め関係者と共有しまして、今後のボランティア活用に生かしてまいります。

石川委員

ボランティアはワールドカップの顔ともなる存在であります。十分な力が発揮できるよう、語学なども含めて養成プログラムなどをつくり、大会に備えていただきたいと思います。

次に、地域連携について伺います。

多摩地域は、トップリングの本拠地も多く所在をしており、我が国のラグビーのメッカになり得る要素もたくさん持っていることは、今までの当委員会の中で私も何度となく発言をさせていただきました。

地元自治体、調布市、府中市、三鷹市との連携をどのように図ってきたのか、また、地元多摩地域全体の自治体の力を引き出してはと考えますが、考え方を伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
多摩地域はラグビーが盛んでございまして、テストマッチに先立つ五月二十八日、地元三市が主催であるサントリー対東芝の府中ダービーマッチをメインイベントとする府中調布三鷹ラグビーフェスティバル二〇一六が、東京スタジアム西競技場で開催されました。これにより、二〇一九年大会に向けてラグビーの機運醸成が図られたところでございます。

六月の都主催のラグビーフェスティバルでは、地元三市にステージイベントへの出演や観光PR、ボランティアなどにご協力をいただき、イベントを大きく盛り上げていただきました。このような地元の力が二〇一九年大会を成功させる上で不可欠でございまして、地元三市との緊密な連携のもとで、機運醸成や開催準備を進めてまいります。

さらに、三年後はラグビーワールドカップの観戦に国内外から大勢のファンが訪れますが、ラグビーファンは滞在期間中、試合だけでなく、観光地をめくり、宿泊、飲食を楽しむというふうにいわれてございます。

多摩地域には、スポーツや文化、食、自然などの観光資源が充実しておりまして、都としては、国内外のファンにスポーツの祭典、ラグビーワールドカップを楽しんでいただけるよう、多摩地域の自治体と連携して取り組んでまいります。

石川委員

ぜひよろしくお願いたします。

東京都市長会や町村会、議長会なども、強い結束力も連携力も多摩地域は兼ね備えていると思っております。三市以外にもラグビーと縁の深い自治体も多くあります。東京スタジアムでの開催となったこともあり、ここは多摩地域全体で取り組むような工夫と呼びかけをしていただきたいと思います。

最後に、周辺の公共的機関や施設の活用についてお伺いたします。

府中市にありますが東京外国語大学は、六十年を超える伝統があり、現在学べる言語数は、主専攻語として二十七言語、主専攻語以外でも三十八言語を学べる大学であります。また、グローバル人材の育成と国際的に活躍する数々の人材を輩出することを大学の目標としてうたっております。東京外国語大学は、学生たちがさまざまな学習と課外活動などを通じて、これらのものを身につけられるように支援をしております。

現在、外語大では、一九六四年東京オリンピックと東京外国語大学の学生たちという企画展が開催をされております。当時、学生通訳として参加した外語大生たちが、世界のトップ選手たちとの交流や選手村でつくる姿などが紹介をされているというところでございます。

東京外国語大学など周辺の公共的施設の活用や、外部からのソフパワーの活用をどのように図っていくのかお伺いたします。

土屋オリンピック・パラリンピック準備局ラグビーワールドカップ準備担当部長国際大会準備担当部長兼務
二〇一九年大会の運営では、本日ご質問いただきました交通アクセスの確保やボランティアの活躍が重要な要素の一つでございます。

東京スタジアムの周辺には大学や警察、公園などの公共的な施設が集積しておりまして、周辺施設の活用につきましては、本年六月に設置した地元市、警察、組織委員会など関係機関で構成する東京スタジアムの会場周辺及びアクセス検討プロジェクトチームにおきまして、幅広い議論を始めてございます。

また、選手や観客と地元の方々との交流は、ラグビーワールドカップの記憶として永く地元語り継がれるものと考えておりまして、ご提案の趣旨は今後の開催準備に生かしてまいります。

石川委員

外語大生は、英語専攻以外の学生であっても英語に関する能力は総じて高いわけであります。二〇二〇年組織オリンピック・パラリンピックに向けては、二〇一四年六月に東京オリンピック・パラリンピック組織委員会と連携協力協定を締結しているようでございます。ですから、二〇一九年のラグビーワールドカップでも、組織委員会、あるいは東京都とも協定をぜひ結んでいただきたいと思います。

東京スタジアムは五万人の観客が集まることを考えますと、かなりの準備が必要といえます。ワールドカップ・イングランド大会のロンドン・トゥイックナム会場での試合観戦の後、バスに乗車するため、私自身も二十分以上歩いた経験をしていただいたわけでありまして、東京スタジアム周辺には、ほかに武蔵野の森総合スポーツ施設、武蔵野の森公園、また警視庁警察学校、調布飛行場、野川公園などあり、オリンピック・パラリンピックの周辺にもらんで、これらの施設の利用もしっかりと視野に入れていただきたいと思います。

以上でございます。